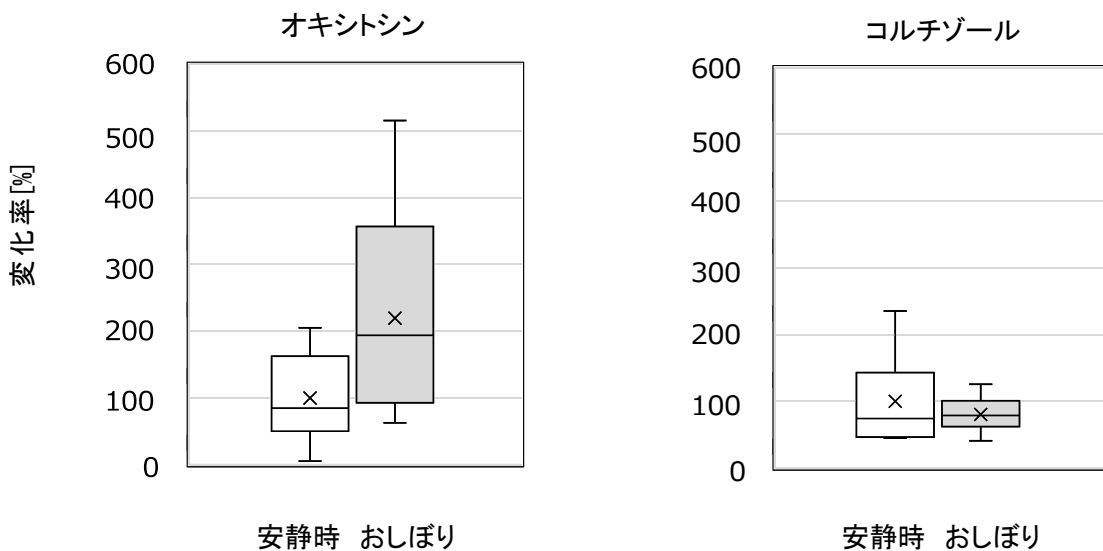


## 新しいおしぼりの価値を見出す

これまでおしぼりの利用はサービスならびに衛生的価値として普及してきました。今日、全国おしぼり協同組合連合会は大学機関等※との協同研究により新たなおしぼりの利用価値を見出すことに成功しました。おしぼりで手を拭うことで心地良い感情をもたらせます。この心地良さの要因のひとつはオキシトシンという内分泌ホルモンの影響であることが確認されました。近年オキシトシンはコミュニケーションの円滑効果や摂食抑制作用が報告されており、飲食前のおしぼりの使用は社会的人間関係の構築の向上や生活習慣病の改善にもつながる有益な価値があると考えられました。我々はおしぼり使用時に得られる快感情の科学的評価のため、オキシトシンとコルチゾールの2種類の内分泌ホルモンに着目し、おしぼり使用前後の唾液中オキシトシンとコルチゾールを測定しました。綿おしぼり使用前後のオキシトシンおよびコルチゾール濃度の変化率は、安静時10分の変化率ならびに綿おしぼり使用后10分の変化率を示す。オキシトシンは綿おしぼり使用后、安静時に比べ約2倍の変動上昇が認められました。(図左)一方、コルチゾールは有意な変動は認められませんでした。(図右)興味深いことに綿おしぼりのオキシトシン増加は男性において有意であり、性差があることも判明した。綿おしぼり使用時において女性よりも男性の方がオキシトシンが上がりやすい。これは女性の方が綿おしぼりに抵抗感があることに起因しているかもしれません。化粧やリユース(再利用)品であることがその理由であると考えられます。女性のニーズに適したおしぼりの開発は今後の課題とも言えます。おしぼり新たな利用価値としてコミュニケーションツールやダイエット効果が期待されます。



□ 図 布おしぼり使用前後の各ホルモン変動の解析

※協同研究は、東京農業大学、城西大学、国際医療福祉大学、株式会社エアープランツバイオにて実施しました。

[全協連と大学機関等との共同研究論文](#)

[『おしぼりの快適感をもたらす内分泌ホルモンの検証』](#)